

■市島謙吉(春城) 政治家・文化事業家。政界引退後、早稲田大学の発展充実に努め、わが図書館の近代化にも貢献。

いちしまけんきち

桜田門外変・1860＝

越後国北蒲原郡で、代表的な水田地主市島家の筆頭分家角市市島家5代治郎吉の長男に生まれる。

市島家は丹波国発祥で、秀吉が没した年、越後に移り、商業で財を成した豪農一族で、角市家は宗家三代目喜右衛門の二男次郎吉から始まる筆頭分家で、特に曾祖父3代治郎吉以来上越蔵米の廻漕を差配し、江戸の文人墨客が多数寄寓、2代治郎吉(岱海堂)をはじめ多くの儒林文人を出した名家で知られた。

叔父勇吾の英才教育を受けて学力が優れただけでなく、全ての面で子供たちのリーダー格として育ち、

明治維新・1868＝8歳：この年、維新で郷里に越後府が置かれ、市島家を宿舎とした長官前原一誠から影響を受ける。

戊辰戦争終・1869＝9歳：

初の日刊新聞1870＝10歳：水原県立広業館で星野恒に漢学を学び、

廃藩置県・1871＝11歳：すでに「資治通鑑」を白文で読んだという。

学問のすすめ1872＝12歳：新潟学校に入学して、英学を学び、

明治6年政変 1873＝13歳：

佐賀の乱・1874＝14歳：上京して、東京英語学校に入学。

三つの内乱・1876＝16歳：開成学校予科に進み、

大久保暗殺・1878＝18歳：改編された_東京大学文学部に入学、高田早苗・坪内逍遙・山田一郎・有賀長雄・天野為之らと同級となつて、政治家を志すようになるとともに、のちの生き方に関わる人脈となつて行く。

.....1880＝20歳：父の養蚕事業が失敗し、叔父和泉巖吉に援助を受けるも、

明治14年政変1881＝21歳：中退。一時、郵便汽船三菱会社運賃課長を務めた後、_明治十四年の政変で下野していた大隈重信に就き、

新体詩抄・1882＝22歳：***小野梓等と立憲改進黨の設立に参画。山田一郎と新聞{内外政事情}を創刊するが、**

岩倉具視没・1883＝23歳：**「廃刊。越後に戻り{高田新聞}を立上げ、党勢拡張に献身。この時、上杉謙信の居城春日山城に因んで、山田喜之助より春城を号を贈られる。同年新潟で起こった高田事件を批判する記事で、改正新聞紙条例筆禍第一号として検挙、投獄される。**

内閣発足・1885＝25歳：出獄、叔父和泉新平の八女ユキと結婚。_大隈重信が創立していた東京専門学校で政治学を教えたり、

帝国大学始・1886＝26歳：長男が誕生。_新潟に戻り、{新潟新聞}に参加、大同団結運動反対の論陣を張って政治活動を続けた後、

国民之友始・1887＝27歳：

初の対等条約1888＝28歳：長女が誕生。

帝国憲法発布1889＝29歳：「政治原論」。

帝国議会始・1890＝30歳：次男が誕生。_第1回来議院議員総選挙新潟2区に立憲改進黨から出馬するが、落選。{読売新聞}に入社し、

大津事件・1891＝31歳：_高田早苗のあとをうけて主筆になる。

1892＝32歳：第2回も出馬するが落選。

1893＝33歳：次女が誕生。

日清戦争始・1894＝34歳：三男が誕生。第3回も出馬するが落選。_第4回総選挙でようやく立憲改進黨から初当選、

白馬会・1896＝36歳：三男が夭折。三女が誕生。

子規句歌革新1898＝38歳：_第5回総選挙に進歩党から当選、第6回総選挙に憲政本党から当選するが、風邪を契機に体調が悪化、

1899＝39歳：四女が誕生。

田中正造直訴1901＝41歳：***喀血し、医師から禁止され、遂に政治活動を断念。高田早苗の薦めで東京専門学校図書館長に就任、**

教科書疑獄・1902＝42歳：父が死去。_小野梓の遺志であった私立大学改組が実現し、早稲田大学初代図書館長になる。

Bushidou・1903＝43歳：_日本文庫協会(のち日本図書館協会)を設立して初代会長になり、第一回図書館事項講習会を行って、日本の司書制度の濫觴となる。

日露戦争終・1905＝45歳：

満鉄発足・1906＝46歳：_国書刊行会を創設して、未刊の古典的文獻数百種の校訂・刊行にあたる。

韓国反日暴動1907＝47歳：弟が死去。みづから文明開化の裏方をもって任じ、{日清印刷}の創設に関わって、体制を整え、

アソキ'創刊・1908＝48歳：大隈を戴いて、{大日本文明協会}を創設して、以後しばらく、欧米名著の紹介に努めたりもする。

韓国併合・1910＝50歳：長男が早世。

明治天皇没・1912＝52歳：

第一次大戦始1914＝54歳：日本女子大学在学中の三女が死去。

21ヶ条要求・1915＝55歳：_この年の選挙では、大隈のために一切を投げ打って支援して勝利を実現。

ロシア革命・1917＝57歳：***早稲田騒動で、館長を辞任するまで、和漢洋の蔵書の拡充に奔走した。**

ベルリン条約・1919＝59歳：母が死去。
晩年は随筆家としても名をなし、

原敬首相暗殺1921＝61歳：_随筆「蟹の泡」はじめ、

水平社結成・1922＝62歳：大隈が死去した際には、葬儀委員長として国民葬を遂行。

関東大震災・1923＝63歳：

治安維持法・1925＝65歳：「随筆頼山陽」、

金融恐慌・1927＝67歳：次女が死去。

満州事変・1931＝71歳：

五一五事件・1932＝72歳：

国際連盟脱退1933＝73歳：「春城代醉録」など、_文化資料的にも香り高い十数巻の著書を遺し、

芥川直木賞始1935＝75歳：この年、自らが関わって来た{日清印刷}が{秀英舎}に併合され{大日本印刷}になる。

日中戦争始・1937＝77歳：

第二次大戦始1939＝79歳：台湾総督府役人に嫁いで台湾に渡っていた長女が死去。***脳溢血で倒れ、**

大政翼賛会・1940＝80歳：妻が死去。

日米開戦・1941＝81歳：

年金+総武装 1944＝84歳：_没した。

インターネット春城日誌研究会「市島謙吉(春城)年譜(稿)」ほか、